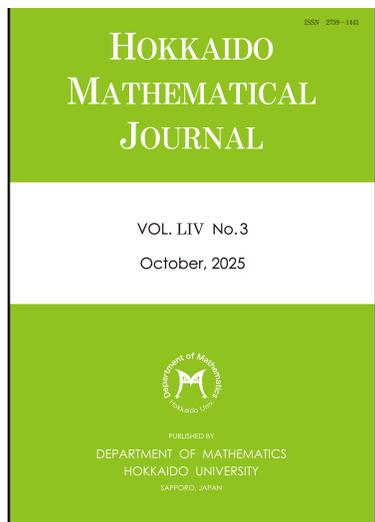


数学ジャーナルだより

Hokkaido Mathematical Journal



北海道大学大学院理学研究院数学専攻
朝倉 政典

Hokkaido Mathematical Journal (HMJ) について、編集委員長として、紹介記事を書かせていただきます。HMJ の創刊は 1930 年 (1930 年から 1972 年までは Journal of Faculty of Science, Hokkaido University, Ser. I, Mathematics として刊行されていました) であり、北海道大学から出版されている長い伝統をもつ数学の総合誌です。編集委員は 2026 年現在 14 名おり、それぞれの委員が担当する分野は、代数、解析、幾何、応用数学と、数学全般にわたります。HMJ は年 3 回 (2 月, 6 月, 10 月) 発行しております。1 回の発行につき 200 ページ程度です。国内外の多くのジャーナルと同様、HMJ も電子化へ移行する取り組みを行いました。まず、2018 年 HMJ47-1 より、論文の別刷りの発行を取りやめ、続いて、2024 年 HMJ53-1 より、冊子体の発行をやめ電子版のみの発行となりました。現在、HMJ は完全電子化されております。電子版は契約している大学・研究所においては無料で公開しているほか、出版後 5 年を過ぎますとオープンアクセス、すなわちすべての方に閲覧可能となります。

投稿論文の本数は 1 年あたりだいたい 90 本程度で、アクセプトされるのはそのうち 3 割程度となっています。投稿された論文のリジェクトまたはアクセプトまでの作業についてご説明します。HMJ に投稿された論文は、最初に編集委員長が受け付けるかどうかを判断します。受付を拒否する主な理由は、内容が明らかに間違っているまたは怪しい (例: リーマン予想を解決した)、数学の論文の体裁になっていない (例: 文章だけで定理がない)、投稿規定を守っていないなどです。次に、適任と思われる編集委員に投稿論文の担当を依頼します。担当になった編集委員はリジェクトするか査読依頼を行うかを判断します。編集委員がリジェクトする理由で主なものは以下の通りです。(1) 主定理が間違っている。(2) HMJ で出版するレベルに到達していない。(3) 研究内容が特殊すぎるため担当できない。(3) について少し説明します。近年、数学の理論は急速な拡がりを見せております。HMJ 編集委員は数学全般を担当できるようにメンバーをそろえておりますが、必ずしもすべての分野を完全にカバーできているわけではありません。論文で扱っている研究分野に明るい委員がない場合、他誌への投稿を勧めるなどしてお断り

しています。さて、編集委員が査読を行うべきと判断した場合、査読者を選定し編集委員長を通して査読を依頼します。査読にはクイックレビューとフルレビューがあります。クイックレビューはその論文が出版する価値があるかどうかを判断するもので、精読する必要はありません。クイックレビューを依頼するとき期限は設けておりませんが、だいたいみなさん1週間程度でレポートを送ってくださいます。一方、フルレビューについては3か月以内に完了していただくようお願いしておりますが、こちらはレポート到着まで3か月を超えることもしばしばです。おそらく他誌でもそうだと思いますが、査読者を選定し依頼するのは決して簡単な作業ではありません。何度も断られ、やっと引き受けてもらえるということも珍しくありません。そもそも、論文の査読には多くの時間とエネルギーを要するにもかかわらず、査読者のみなさまにはそれを無償でお引き受けいただいているわけです。これまでHMJに投稿された論文の査読に協力してくださったみなさまには感謝申し上げるとともに、今後も引き続きお取り計らいくださいますようお願い申し上げます。レビューを受けて、必要なら論文を修正し、編集委員がアクセプトと判断した場合、編集委員長の名で著者へアクセプト通知を行います。HMJの最近のデータでは、投稿されてからアクセプト通知までの平均的な期間の長さは7~8か月程度です。ただし、中には1~2年と長期化してしまうケースもあります。以上が論文がアクセプトされるまでの行程です。どんな人でも自分の論文がリジェクトされるのは嫌でしょう。ひとつだけ、編集委員からリジェクトされないためには序文(introduction)をしっかり書くことが大事だと感じます。査読者とは違い、編集委員は必ずしもその研究分野のスペシャリストではありません。編集委員の目に留まるためには、序文で、どの研究分野のどの位置にある研究成果であるか、先行結果との比較、他の分野とのつながり等を説明しておくのが効果的です。

HMJの運営費は北海道大学理学部数学教室の運営費から支出されています。教室運営費が減少傾向である一方で、出版にかかる費用は増加傾向にあります。2024年以降、完全電子化を行ったことで一定の収支改善が見られましたが、将来的にどうなるかは分かりません。最近、投稿料や出版料を設定するジャーナルが多くなってきましたが、HMJではそれは考えておりません。私自身は、長い伝統を持つHMJを将来にわたって継続しかつ発展させていきたいと考えております。そのためには、質の高い論文を出版し続けることが何より肝要であり、出版料を設定することは論文を投稿しにくい状況を招く恐れがあると考えております。

最後に、HMJでは、研究集会の報告集や還暦記念号の出版などを受け付けています。受け付けるかどうかは、HMJ編集委員会において、十分なレベルの論文が期待できるかどうか、北大とどんな関係があるか、などを審議した上で決定します。興味のあるかたは、HMJ編集部までお問い合わせください。今後もみなさまからの質の高い論文の投稿をお待ちしております。